

昭和62年度
平城宮跡発掘調査部
発掘調査概報



1988

奈良国立文化財研究所

凡 例

1. 本書は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、昭和62年度に実施した平城宮跡および平城京内遺跡の発掘調査の概要報告である。各調査報告の執筆は、各現場の発掘担当者が行なった。
2. 第184次、第186次調査については本書に概要を収録したが、別途報告書が刊行される予定で、詳細はそれによらねたい。
3. 発掘遺構図に付した座標値は、平城宮内遺構の場合が、平城宮方位に基づく座標値であり、平城京内遺構の場合は、国土方眼第VI座標系による座標値である。平城宮方位とは、内裏内郭をめぐる築地回廊北面の北雨落溝の方位に基づくもので、国土方眼に対して北で $0^{\circ} 7' 47''$ 西偏する。宮内に設けられた基準点のうちNo.7（推定第二次大極殿基壇上）を（0， 0）とし、東西南北をEWSNとして正数（単位m）で示す。なおNo.7は国土座標では $X = -145,412.55$ 、 $Y = -18,322.19$ である。高さはすべて海拔高で示す。
4. 遺構図には、遺構ごとに一連の番号を付け、番号の前に、SA（築地・塀）、SB（建物）、SC（廊）、SD（溝・濠）、SE（井戸）、SF（道路）、SK（土壇）、SS（足場）、SX（その他）などの分類記号を付した。なお遺構番号のなかには仮番号で示したものを含んでいる。
5. 平城宮出土軒瓦・土器の編年は次のように表わす（カッコ内は西暦による略年代）。平城京内についてもこれを準用した。

軒瓦；平城宮出土軒瓦編年Ⅰ期（708～721）、同Ⅱ期（721～745）
同Ⅲ期（745～757）、同Ⅳ期（757～770）、同Ⅴ期（770～784）
土器；平城宮土器Ⅰ（710）、同Ⅱ（725）、同Ⅲ（750）、同Ⅳ（765）、同Ⅴ（780）、同Ⅵ（800）、同Ⅶ（825）
6. 本書に未収録の昭和62年度調査については、37頁の「その他の発掘調査一覧」を参照されたい。

目 次

I 平城宮の調査	
1 朱雀門東部の調査	第157次補足調査…………… 3
2 兵部省地区の調査	第175次…………… 10
3 造酒司地区の調査	第182次…………… 15
4 第一次朝堂院東南部の調査	第185次…………… 23
5 内裏東北隅の調査	第187次…………… 29
6 平城宮北方遺跡の調査	第183—19次…………… 34
II 平城京・京内寺院の調査	
1 左京四条一坊十五坪の調査	第183—1次…………… 38
2 右京一条二坊六坪の調査	第183—14次…………… 40
3 右京二条三坊一坪の調査	第183—18次…………… 41
4 阿弥陀浄土院の調査	第183—21次…………… 43
5 左京三条二坊一・二・七・八坪の調査	第184・186次…………… 44
6 左京二条二坊十四坪の調査	第189次…………… 63
7 右京九条大路・坪境小路の調査	第125—5次…………… 78
8 西大寺境内の調査	(次数外)…………… 79
その他の発掘調査一覧	…………… 37
写真 1 (第175次調査)	2 (第182次調査)
3 (第189次調査)	4 (第184次調査出土 墨画土器)
5 (第189次調査出土 旧石器)	

(表紙カットは第184次出土 墨画土器から)

昭和62
年 度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報

1988.6

奈良国立文化財研究所